

令和 2年 12月

山田博之 学位論文審査要旨

主査 難波 範行
副主査 花木 啓一
同 前垣 義弘

主論文

Prevalence and clinical characteristics of children with medical complexity in Tottori Prefecture, Japan: A population-based longitudinal study

(鳥取県における医療的ケア児の有病率と臨床的特徴：地域住民ベースの縦断的研究)

(著者：山田博之、大野光洋、汐田まどか、戸川雅美、宇都宮靖、赤星進二郎、土江宏和、岡田隆好、大栗聖由、樋上茂、野間久史、前垣義弘)

令和2年 Brain & Development 42巻 747頁～755頁

参考論文

1. Frequent epileptic apnoea in a patient with Pitt-Hopkins syndrome

(頻回のおてんかん性無呼吸を認めたPitt-Hopkins症候群の一例)

(著者：山田博之、玉崎章子、大栗聖由、堀いくみ、齋藤伸治、前垣義弘)

令和2年 Epileptic Disorders 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は鳥取県の医療的ケア児の12年間の推移を後方視的に検討した調査である。都道府県単位での全数調査であり、正確な医療的ケア児数を示すとともに、その有病率が12年間で約2倍に増加していることを示した。また本研究では医療的ケア児を多面的に評価し、基礎疾患別では先天疾患が約半数を占め、心疾患患者は12年間で約2倍に増加することを示した。重症度別では「動けて話せる医療的ケア児」の増加が大きいことを示し、臨床現場で抱いていた変化を数値として示した。医療的ケアの内容も複雑化し、呼吸管理を要する患者数の増加を示した。本論文の内容は、医療的ケア児の増加や多様化を示すとともに、これらの推移は医療制度や福祉サービスの策定、教育の提供等において基盤となるとデータであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。